

令和8年度 一般選抜（二期） 入学試験問題

【 国語（現代の国語） 】

※科目【英語（英語コミュニケーションⅠ、Ⅱ）】、【国語（現代の国語）】、【数学Ⅰ、数学Ⅱ（場合の数と確率のみ）】、【情報Ⅰ】、【簿記・会計】の5科目の中から出願時に届け出た2科目を、解答してください（受験票に科目名を記載しています）。

※試験時間は、2科目で100分です。

※この問題冊子は【国語（現代の国語）】です。

I. 注意事項

- (1) 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- (2) 出題科目、及びページは下表のとおりです。

出題科目	ページ
国語（現代の国語）	1 ～ 12

- (3) 問題冊子の印刷不鮮明、ページ落丁、乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- (4) 問題の解答は、すべて別に配布する解答用紙に記入してください。
- (5) 解答用紙には、解答欄以外に次の記入欄があるので、それぞれ正しく記入してください。
 - ① 受験番号欄
受験番号を記入してください。
 - ② 氏名欄
氏名・フリガナを記入してください。

II. 解答上の注意

＜国語（現代の国語）＞について

- (1) 解答欄への選択肢の記号（ア・イ・ウ・エ・オ …）の記入、および 文字の記入は、読み間違えのないように ていねいに書いてください。

国 語

第一問 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

中国の杭州で、完成したてのホテル「アマンフアユン」を訪れる機会があった。杭州は歴代中国王朝の中でも最も芸術文化に洗練を見せたといわれる南宋の都があった街で、現在でも往時の繁栄の残り香を漂わせている。西湖という大きな湖は、南宋の水墨画そのものの茫洋たる景観を今日にとどめ、早朝ともなれば霽^{はら}にかすんだ湖岸に老人たちの太極拳のゆつたりした動きが溶けるように重なる。西湖の景観を巧みに取り入れた建築の風情や、食卓に供される自磁の落ちつき、そして時折見かける典雅な墨跡など、随所に文人の名残や消息を感じさせるのである。

この街の郊外に、かつて茶畑を耕していた村落をそのまま転用したような高級リゾートホテルができた。茶畑や竹林を含むこんもりとした緑に覆われたホテルの敷地は一四ヘクタール。四二棟の客室はいずれも古民家をそのまま改造したものでひとつとして同じものがない。そこに高速インターネットや視聴内容が自由に選べるテレビやオーディオがさりげなく、しかし精度よく配されており、家具調度は中国風ながらも居室としては現代的な快適性が確保されている。古民家の棟が連続的に重なるスパリゾートも、漢方医学に準拠した施術としつらいである。敷地内にあるテイルームは、古くからこの地にあるものをそのまま存続させており、この地の銘茶「龍井」をはじめ各種のお茶を、伝統的な空間や茶器とともに楽しむことができる。建物のそこそこには瀟洒^{しょうしやう}な竹細工の烏龍^{うりゅう}が並び、鳥のさえずりが時折、木々を揺らす風に混じる。朝になると、中華レストランの厨房から蒸し器の湯気がもうもうと立ち上って空に消える。広大な敷地は全て、丁寧に敷^ふ設された敷石の道でつながり、散策の情緒を足下から演出している。これが「アマンフアユン」である。その土地の風土や伝統、調度やもてなしの作法をホテルの資源として取り込んでいくアマン流の手際を、この中国の古都においても感じることもできた。決して派手ではないが、

吟味された上質さが積み重なって、記憶にぬぐいがたい印象を刻む。

日本の美意識が未来資源であるとするなら、それを観光という産業の中で具体的にどう生かすか。そのひとつの事例として参照してみたいのが、シンガポール育ちのインドネシア人エイドリアン・ゼツカが生み出したホテル群「アマン・リゾーツ」である。アマンは、西洋流のオペレーションを基本としながらも、一方ではその合理性を否定するアツチホテルとしての独自の運営哲学で、リゾートホテルの考え方に新たな潮流を生み出してきた。その特徴は、ホテルが存在する土地の景観、風土、伝統、様式といったものを丁寧に活用し、文化の最上の収穫物のひとつとしてホテルを構想・運営しようとする姿勢である。

アマン・リゾーツの最初のホテルは一九八八年にタイのプーケット島にできた「アマンプリー」である。現在では、ブータン、カンボジア、フランス、仏領ポリネシア、インドネシア、インド、モロッコ、フィリピン、スリランカ、タイ、タークス・カイコス諸島、アメリカ合衆国、中国などに二四の小規模リゾートホテルを展開している。「アマン」とは平和を意味するサンスクリット語で、土地ごとのテーマを織り込んだ短い言葉を付加して各地のホテルの名称としている。ちなみに最初の「アマンプリー」は「平和な場所」という意。いずれも客室は、独立したヴィラを単位とし、五〇室以内と数は少なめで、その分だけ客室に関わる人員を数多く配している。

高級リゾートホテルの経営は、ワイナリーの経営などと同様、A という、実業と芸術の境界にポイントがある。美と経済に精通していなければならない、針の穴をくぐるような、紙一重の感覚的な投機の連続技なのである。その成否は、宿泊に関係するあらゆる営みの一瞬一瞬に、非日常の喜びと充足をいかに鮮烈に表現し顧客に差し出せるかという点、そしてその結果として投資に見合う対価を喜んで顧客に支払ってもらえるかという点に尽きる。特色ある文化やしたたるような自然環境に触れる興奮を、どれだけ見事に収穫できるかが肝要なのだが、さらに言えば、そのサービスによって、顧客のリゾートに対する欲望のかたちそのものを変容させ、異境や異文化への興味を加速的に深めていくという、まさに欲望のエデュケーションがこのビジネスの本質でもある。

西洋人は、大航海時代や植民地時代の昔から、文明から遠く隔たった異境に、洗練を極めた居住や食事を持ち込んで楽しみたいという欲望を育んできた。サハラ砂漠や南米はアマゾンの流域、あるいは野生動物に満ちたケニアのマサイマラのような異界で、白いテーブルクロスのかかったダイニングテーブルに向かい、フォーマルな制服に身を包んだ給仕にワインを注がれつつ最良の欧州料理を楽しむというような、⑥傲慢さと隣り合わせの愉楽を、文明の優位とともに肥大させてきたわけである。しかしこうした⑥辺境に西洋文化を持ち込むリゾートに人々はもはや感嘆しない。世界は文化の多様性に満ちており、それらの絶妙なる配合に敏感なアンテナを振り向ける人々が増えているからである。

エイドリアン・ゼツカは、かつては『LIFE』や『TIME』誌などの極東支配人として仕事をしており、世界の富裕層のライフスタイルや嗜好を自身のビジネス感覚の中に織り込んできた人である。それだけに、西洋の限界とアジア文化の可能性に敏感であった。

ホテルの品質は、建築やインテリアに集約されるものではない。もちろんそれも重要だが、大事な点は他にある。それはまさに「経験のデザイン」とでも呼ぶべきものであり、ホテルで過ごすあらゆる瞬間、あらゆる刹那をパイ皮のように積層させることで完成されていく「もてなしの織物」である。

ホテルの風評に触れる時が、人とホテルの最初の接点だとすると、経験のデザインはそこから始まる。アマン・リゾーツは広告をしない。したがって宿泊客が発する感想や、丁寧な取材を行う雑誌などが未来の顧客にとっての情報ソースとなる。ホームページは最小限に作られており、ネット環境にわずかに開いた隙間のようなのだ。少量だがイメージを広げる余地のある風評や情報を糧に訪れた来場者は、期待で胸がはち切れそうになりながらホテルのエントランスに到着する。すでに経験のデザインがここに起動している。

どんな姿の従業員がいかなる物腰で対応し、客はどこに導かれ、どんな家具に腰を下ろすのか。そこに運ばれてくる飲み物はどんな器、どんな間合いで供され、何を予感させるものであるのか。チェックインはどんな雰囲気が進み、どんな書類にいかなるペンで何を書き込むのか。部屋に通される前に渡されるのはどんなホルダーがつかいたいかなる形状の

キーであるか……。

エントランスからキーにたどり着くわずかの間にも、微細な経験が無数に織り込まれていく。 **I**、手入れの行き届いた庭や小道を通って客は自分のヴァイペと進むわけだが、部屋にたどり着く行程にも当然のことながら夥しい経験の結節がある。部屋についた客は、一息つくくと、^aおもむろにキャビネットのドアを開け、上着をぬいでハンガーを取り出しそこにかけるだろう。 **II** は冷蔵庫から冷えた飲み物を取り出して備え付けのタンブラーに注いで一口飲むかもしれない。その一瞬一瞬に何かがさりげなく待機してなくてはならない。ハンガーを手にした時、冷蔵庫を開けた瞬間、栓抜きを探す一瞬、そしてタンブラーの下に敷くコースターに目をとめた刹那に、もてなしの機会がある。

環境を生かした素晴らしい建築も、景観に溶け込む静かなプールの眺望や、もめくるめく食の饗応^{きやうもう}もスバの愉楽も、そのような緻密なサービスの積層の上に機能することによって、忘れられない印象として人々の心の底に落ちていくのである。

花を活けるというのは、空間に気を通わせるということである。空間とは壁に囲まれた容積のことではない。意識を配して、配慮の明かりが点灯している場所のことである。何もないテーブルの上にぼつりと石を置くと、そこに特別な緊張が発生する。その緊張を介して人は「空間」にふと気をとめる。このように、施設の内に小さな蠟燭^{ろうそく}を灯すように、ぼつりぼつりと意識が灯されて空間になっていく。花を活けるというのはそういう行為である。造形そのものもさることながら、心の配信が空間に生氣を生み出すのである。

目を凝らしてアマンを観察するならば、その背後に日本がおぼろげに見えてくる。かつて京都に滞在していたことのあるエイドリアン・ゼツカは、自身でも日本の旅館に影響を受けたことを語っている。花の配し方に限らず、サービスをさし出す間合い、あるいは庭や水を介して自然を呼び込む技術など、日本の一流旅館にみられるもてなしが、かたちを変えて備わっている。

アマンは二四ものホテルを世界中に展開するに至ったが、客室の総数はラスベガスの大型リゾートホテル一つ分にも満たない。それだけきめ細やかに、経験のデザインが装着

されているのだ。日本文化は幾度となく、世界の文脈にこれを生かそうとする国際人の目によって再発見されてきた。ゼツカもその一人だ。工業国を卒業し、^オ観光という柔らかな価値を差配していく領域へと、日本はゆるやかに産業をシフトしなくてはならない。アマン・リゾーツは、そのひとつの先行事例と見ることができる。

時代は今、アジアの台頭へと急速に動いている。リゾート産業を支える顧客も、徐々にアジア人の比率が高まることが予想される。アジアの人々は欧米人のように長い休暇をとらない。また自然に対する親しみ方も異なる。新たな状況の中で、リゾートホテルへの欲望を今後どのような方向に導くことができるだろうか。

長い間、アジア唯一の経済大国として独白の道を歩んできた日本ではあるが、アジア諸国の経済の台頭と活性によって、[◎]自身の相対的価値をあらためて見つめ直す複眼の視点が今、求められている。日本のあのホテルに行ってみたか、と世界中でささやかれるような、そういうホテルの出現が待たれているはずである。

(原 研哉「日本のデザイン〈岩波書店〉による」)

※問題作成のため本文を一部変更・省略したところがあります。

問一 本文を「主題が提示されている部分」(新しい観光ビジネスのあり方)と「具体例が展開されている部分」(アマン・リゾーツの取り組み)という視点から大きく二つに分けたとき、後半の段落はどこからはじまるか。はじめの五字をぬき出しなさい。(句読点等の記号も一字として数える。)

問二 A に当てはまる言葉を次のア～エ中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 多数の支持は求めず少数でも熱心な顧客を得る
- イ 時代の流れに合わせながら伝統も大事にする
- ウ 利益を確保しつつも理想郷の実現をめざす
- エ 顧客の要望に広く応えることを何よりも優先する

問三 I、II に当てはまる言葉を次のア～エ中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア あるいは イ ところで ウ それでも エ やがて

問四 傍線部 a「おもむろに」、b「めくるめく」の本文中の意味としてもつともふさわしいものを次のア～エの中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

a「おもむろに」

ア 無意識に イ 期待とともに ウ 不意に エ しつかりと

b「めくるめく」

ア うつとりする イ ぞつとする ウ いつまでも続く エ 親密な

問五 傍線部①「新たな潮流を生み出してきた」とあるが、アマン・リゾーツの考え方の説明としてもっともふさわしいものを次のア～エ中から選び、記号で答えなさい。

- ア どんな土地であっても共通のサービスが提供できるシステムを築こうとしている。
- イ リゾートホテルが目指してきた合理性を捨てて地域の特質を生かそうとしている。
- ウ 西洋流のサービスは保ちながらそこに土地ごとの違いを取り入れようとしている。
- エ 西洋の合理性を徹底することで異境に洗練されたシステムを広めようとしている。

問六 傍線部②「傲慢さと隣り合わせの愉楽」とある。「傲慢」とは「相手を見下している様子」という意味である。では、異境で西洋料理を楽しむことがなぜ「傲慢」と言えるのか。その理由を説明した次の文の□に入る言葉を本文中から五字でぬき出しなさい。(句読点等の記号も一字として数える。)

西洋人には、自らの□を疑う視点が欠けていたことを意味するから。

問七 傍線部③「辺境に西洋文化を持ち込むリゾートに人々はもはや感動しない」について、以下の設問に答えなさい。

- (1) こうした状況を表した表現を、本文中から五字以内でぬき出しなさい。(句読点等の記号も一字として数える。)
- (2) 「感動しない」とあるが、その理由の説明としてもつともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 西洋文明よりもはるかに優れた文化が世界中に存在することがわかったから。

イ 交通の発達で西洋にとって異境というほど遠い世界が存在しなくなったから。

ウ 地域ごとの文化的特色を味わうことの面白さに人々が気づき始めているから。

エ 文明の発展が世界規模で進み異境も西洋も変わらない風景になっているから。

問八 傍線部④「配慮の明かりが点灯している」とあるが、これと意味の上で異なる表現を本文中の二重傍線部ア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

問九 傍線部⑤「日本がおぼろげに見えてくる」とあるが、アマン・リゾーツと日本文化はどんなところが共通しているのか。その説明としてもつともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 伝える情報をあえて制限するなど引き算の思想にもとづいて、顧客の欲望をあやつることを基本戦略にしているところ。
- イ 顧客の動きを細かなところまでイメージし、どんな場面でも満足を与えられるようなしかけをこらそうとしているところ。
- ウ 非日常を求めてやってくる顧客を満足させるために、日常を忘れさせるような不思議な体験をもたらす工夫をしているところ。
- エ 顧客からの期待や要求に応えるために細部にこだわりを見せることで、空間にびんと張りつめた緊張感が流れているところ。

問十 傍線部⑥「自身の相対的価値をあらためて見つめ直す複眼の視点が今、求められている」とあるが、筆者はこれからの日本が何をすべきだと述べているのか。その説明としてもつともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 目覚ましい発展を見せるアジア諸国の動向に目を配りつつ、他国に負けない経済成長を目指して利益優先の観光政策を考案していかなければならない。
- イ 工業に代表されるモノづくり産業に集中するのではなく、文化という非物質的価値を活用することでアジアの経済大国の座を守っていかなければならない。
- ウ 西洋に利用される一方だったアジアの歴史を見直し、観光産業を通して地理的にも心情的にも近い国々との関係を深めていかなければならない。
- エ 過去の実績から自らを特別な国だと考えるのではなく、アジアの中で置かれている立場をはかりながら産業の方針を定めていかなければならない。

第二問 次の傍線部の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

- ① 花が開花する。
- ② 駅前の店で弁当を買う。
- ③ 意志をはっきり示す。
- ④ 冷静な判断が必要だ。
- ⑤ 鳥が空を飛行する。
- ⑥ 計画を実行する。
- ⑦ 規則を守る。
- ⑧ 全国の天気を調べる。
- ⑨ 新しい本を出版する。
- ⑩ 書類を提出する。
- ⑪ 兄は技術者です。
- ⑫ 普段は早起きしている。
- ⑬ この道は危険だ。
- ⑭ 問題の解決に取り組む。
- ⑮ 年に一度、商品の棚卸しを行う。

第三問 次のカタカナ部分を漢字一字と送りがな（ひらがな）に直しなさい。

- ① 素晴らしい成果に対して賞をアタエル。
- ② 長い髪をユリエル。
- ③ オダヤカな海を眺める。
- ④ イチジルシイ進歩を遂げた。
- ⑤ スルドイ観察眼を持っている。
- ⑥ 旬の魚をアジワウ。
- ⑦ 新たな目標をカカゲル。
- ⑧ 科学的な根拠にモトヅク対策を進める。
- ⑨ そのダンサーのステップはカロヤカだ。
- ⑩ 化粧水で肌がウルオウ。

第四問 次の傍線部のカタカナを漢字で書きなさい。

- ① シュショウが演説を行う。
- ② 両社はソウゴに利益をもたらす提携を結んだ。
- ③ 彼はオトナしい性格だ。
- ④ 彼の対応はシンシ的であった。
- ⑤ 古いシヨモツが残っている。
- ⑥ 植物がベンシヨクする。
- ⑦ キョウシヨクですが、お言葉に甘えます。
- ⑧ 雨で遠足がエンギされた。
- ⑨ 新しいギカイを導入する。
- ⑩ ブツシツ的な豊かさ。
- ⑪ 正確なスイソクを行う。
- ⑫ 両者がセツショウして決定した。
- ⑬ 彼女は式典で美しいゴフクを着ていた。
- ⑭ カンゲツに述べよ。
- ⑮ 歴史にギョウミがある。

国語

解答用紙（表面 第一問）

受験番号	
フリガナ氏名	

問九	問八	問七	問六	問四	問三	問一
		(1)		a	I	
				b	II	
		(2)				
問十				問五		問二

第一問 文章問題

国語

解答用紙（裏面 第二問～第四問）

第二問 漢字の読み

⑮	⑭	⑬	⑫	⑪	⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①

第三問 書き取りとふりがな

⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①

第四問 漢字の書き取り

⑮	⑭	⑬	⑫	⑪	⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①

解答欄への文字の記入は、読みやすい字でていねいに書いてください。
また、漢字は、楷書で書いてください。
読みにくいと判断された場合には採点されない場合がありますので留意してください。

国語

解答用紙（表面 第一問）

受験番号	
フリガナ氏名	

問九
イ

問八
オ

問七
(1)
西
洋
の
限
界
(2)
ウ

問六
文
明
の
優
位

問四
a
イ
b
ア

問三
I
エ
II
ア

問一
ホ
テ
ル
の
風

第一問 文章問題

問十
エ

問五
ウ

問二
ウ

国語

解答用紙（裏面 第二問～第四問）

第二問 漢字の読み

⑮	⑭	⑬	⑫	⑪	⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①
たなおろ	かいけつ	きけん	ふだん	ぎじゅつ	ていしゅつ	しゅつぱん	ぜんこく	きそく	じつこう	ひこう	れいせい	いし	べんとう	かいか

第三問 書き取りとふりがな

⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①
潤う	軽やか	基づく	掲げる	味わう	鋭い	著しい	穏やか	結わえる	与える

第四問 漢字の書き取り

⑮	⑭	⑬	⑫	⑪	⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①
興味	簡潔	呉服	折衝	推測	物質	機械	延期	恐縮	繁殖	書物	紳士	大人	相互	首相

解答欄への文字の記入は、読みやすい字でていねいに書いてください。
また、漢字は、楷書で書いてください。
読みにくいと判断された場合には採点されない場合がありますので留意してください。